

アンナプルナベースキャンプ・トレッキングの調査報告

Field Research Report on Annapurna Base Camp Trekking in Nepal

韓 志 昊*, 渡 辺 和 之**, 白 坂 蕃***
HAN, Jiho; WATANABE, Kazuyuki; SHIRASAKA, Shigeru

Abstract: This paper reports the field research conducted in March 2018 on the trekking tourism in Annapurna Conservation Area, Nepal. Findings from interviews with lodge owners and Annapurna Conservation Area Project (ACAP) manager are presented. Unlike the trekking service businesses in Sagarmatha National Park, ACAP is closely involved with the local committee which manages the operation of the lodges and restaurants in the special management area of the Annapurna Conservation Area.

Key words: トレッキング (Trekking), アンナプルナ保護地区 (Annapurna Conservation Area), アンナプルナベースキャンプ (Annapurna Base Camp)

- I はじめに
- II 調査概要
- III 調査結果
- IV 今後の研究課題

I はじめに

2017年度にネパールを訪れた外国人観光客940,218名の中で、“Trekking & mountaineering”を目的に訪問した割合は8% (75,217名)であり、“Holiday Pleasure”と“Pilgrimage”に続いて3番目に多い順である (Ministry of Culture, Tourism & Civil Aviation, 2018)。世界最高峰(8,848m)であるエベレスト (ネパール語はサガルマータ, Sagarmāthā)・ベースキャンプまでのトレッキングとアンナプルナ保護地区内のトレッキングは、ネパール観光において、もっとも

魅力的な観光資源である。しかし、ネパールまでの移動を除いて1週間以上の時間を必要とすることや安全のためにガイドを雇う必要があることがトレッカーの増加にマイナス要因である。また、サガルマータ国立公園に行くためにはLukhlaまで国内線の航空便 (1便16席ほど)が主な移動手段であるが、座席数を増やすことが困難なため、トレッカーの大幅な増加が期待できない。一方で、アンナプルナ保護地域では、Special Management Area内のロッジ数をACAPが制限していることがトレッカー数の増加を妨げている。

本稿は、2018年3月にAnnapurna Conservation Area内のAnnapurna Base Campまでのトレッキングに関わる観光実態の調査報告である。自然保護地域におけるトレッキング観光の役割と課題を中心に、ACAP関係者や宿泊施設であるロッジの経営者に聞き取りを行った。また、トレッキン

* 立教大学観光学部・教授

** 阪南大学国際観光学部・准教授

*** 東京学芸大学・名誉教授

ルートに設置されている Checkpost や ACAP 事務所でしか入手できない資料も収集した。

II 調査概要

今回の調査では、Pokhara から Ulleri (2,020 m) までジープ車で移動し、Ulleri からトレッキングを開始した(表1)。Ghorepani (2,860m) で1泊して日の出やDhaulagiri (8,167m) の展望スポットとしてネパール人ガイドにも人気が高い Poon Hill (3,193m) を登ってから、Tadapani (2,630 m) へ向かった。Poon Hill は、Pokhara から2泊3日または3泊4日で往復できるコースであるため、ネパール入出国の移動を含んだ全行程で1週間ほどの滞在が可能なトレッカーが多く訪れるコースである。

表1 調査日程

日程	宿泊村 (高度)	聞き取り先 (村)
3月11日	Ulleri (2,020m)	
3月12日	Ghorepani (2,860m)	
3月13日	Tadapani (2,630m)	
3月14日	Sinuwa (2,360m)	Mountain Discovery Lodge (Chuile)
3月15日	Himalaya (2,920m)	Himalaya Hotel & Restaurant
3月16日	MBC (3,700m)	Shenker Guest House
3月17日	Sinuwa (2,360m)	
3月18日	Ghandruk (1,940m)	Himalaya Lodge
3月19日		ACAP* Unit Conservation Office
3月20日	Pokhara (1,729m)	

*ACAP: Annapurna Conservation Area Project

Tadapani から Sinuwa (2,360m) へ向かう途中で広い敷地にある Mountain Discovery Lodge (Chuile) を経営しているオーナーの女性に聞き取りをした。その後、Sinuwa にある韓国食を提供しているロッジで泊まり、翌日は Himalaya に

ある2軒のうち Himalaya Hotel & Restaurant に泊まりながら、運営を担当している男性に聞き取りを行った。MBCでは、Shenker Guest House の運営担当者の男性に聞き取りをすることができた。

Ghandruk に戻って、Himalaya Lodge のオーナー経営者と ACAP Unit Conservation Office のマネージャーにも聞き取りをした。聞き取りで収集した情報を内容別に整理して、結果と今後の課題としてまとめた。

表2 ABCまでの宿泊地点にあるLodge数(2018年3月)

村名	高度	Lodge 数
Ghandruk	1,941m	39
Ghorepani	2,860m	10
Banthanti	3,180m	6
Tadapani	2,630m	8
Chhomrong	2,170m	15
Sinuwa	2,340m	3
Bamboo	2,145m	5
Dovan	2,800m	3
Himalaya	2,900m	2
Deurali	3,200m	4
Machhapuchhre Base Camp	3,700m	5
Annapurna Base Camp	4,130m	4

*ABC : Annapurna Base Camp

(出典：各村に設置している案内板の掲載情報—写真3参照)

III 調査結果

1) Annapurna 保護地域における観光の役割

①自然保護の方法としての観光

Annapurna 保護地域内、特に Special Management Area 内では、植物を保護するために、薪の使用が禁止されていて、油やガスを使用することになっている。トレッカーから収入を得られるようになり、Special Management Area より下の地域でも薪にするために木を切ることがなくなり、プロパンガスを使用することになった。

②女性に活動の機会を提供

Special Management Area 内では、ペットボトルやガラスのボトルを持ち込んではいけない。ペットボトル入の水の代わりに、Safe Drinking Water Project が量り売りで浄水した水を提供している。このプロジェクトは女

性の活躍を目的にして女性が主体となって活動している。しかし、**Special Management Area**内でも高度が高い地域にあるロッジとレストランの施設は、主に男性が運営している。トレッカーのために宿泊と食事を提供する施設があるのみで、住民が生活する村ではないため、体力が弱く、子育てをする女性は高度の低い地域にある村で生活をしている。

2) 環境保全のためのロッジ運営ルール

Sinuwa から上 (**Special Management Zone**)にあるロッジは、**ACAP**のルールにより管理されながら、コミュニティの話し合いで決まるルールを基に運営されている。例えば、**Bamboo**から**ABC**までにあるロッジに泊まる際は、ベッド1台に1人の宿泊というルールで、ベッド2台がある部屋を1人で使用することを禁止している。2人連れのトレッカーが3人部屋で泊まると、残りのベッドは未知のトレッカーが使用する可能性がある。ロッジを増やさない**ACAP**の方針から決められたルールである。

また、冬のオフシーズン（12月～2月）と夏のオフシーズン（雨季：6月～8月）は、エリアごとに一部のロッジを閉め、少ない人数で運営する。どのロッジを閉めるかと閉めたロッジへの収入配分については、コミュニティで話し合って決める。

3) ゴミ処理の問題

ゴミ収集や処理に関しては、決まったルールがなく、ローカルコミュニティが話し合いで決めて実施している。トレッキングルートのところどころに、トレッカーがゴミを捨てられるようにゴミ捨て場が設置されていて、歩道の脇の木にゴミ袋がかかっている。ロッジで出るゴミは、近くのごみ集積場に運ぶことになっているが、トレッキングルートの途中で見かけたゴミ集積場は、適切に処理しているようには見えなかった。

IV 今後の研究課題

今回の調査を通して、文献や2次データから把

握できないアンナプルナ保護地域におけるトレッキング観光の実態や問題点を発見することができた。以下の3点について今後さらに調査と分析を行う。

① 韓国人グループトレッカーのトレッキング・スタイルの特徴

ー昨年（2017年）3月に実施したエベレスト・トレッキングの調査では韓国人のトレッカーに会わなかったが、今回のアンナプルナ・トレッキングの調査では複数の韓国人トレッカーグループに会うことができた。すべてのグループが韓国語を話せるネパール人コックを雇い、宿泊先のロッジのキッチンを借りて1日3食とも韓国食を作らせて食べていた。**Pokhara**で入手できる野菜や米以外の調味料などの食材は韓国から持参して、鍋や燃料のケロシンとともにポーターが運んでいた。

韓国人トレッカーグループの食事に関する行動の背景についての研究は、トレッキング研究において文化的側面の分析を深める可能性がある。

② ネパール人ガイドの追跡調査

トレッキングのガイドをしているネパール人の中には、外国で働いた経験があり、外国語が話せる人や、ガイドよりも収入が高い外国での出稼ぎを準備しながらガイドとして働く人がいる。

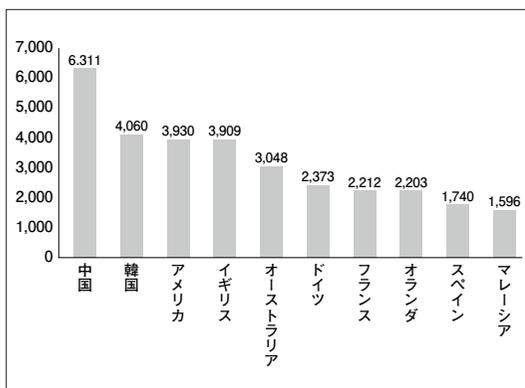
特に、2016年に中国人トレッカーに次いでアンナプルナ保護地域への訪問数が多かった韓国人のトレッカーグループは（図1）、韓国語ができるガイドやコックを雇う傾向があることが今回の調査で明らかになった。韓国で働きながら韓国語も習得して、ネパールに戻ってガイドを続けるネパール人についての実態調査や追跡調査を行うことで、海外での出稼ぎと観光産業との関係について分析することが期待できる。

③ 交通インフラ整備とトレッキング観光の関係

ネパールは各地で道路整備が行われているため、今回の調査でもカトマンズにいる研究調査コーディネーターも出発の日まで正確に

行程の移動方法を確定することができなかった。ポカラ (Pokhara) に到着してガイドが移動用のジープ車を手配してから Ulleri (1,960m) まで行けることが分かった。また、道路はトレッキングのルートそのままを使用するため、車が通る度に歩いているトレッカーは避けなくてはならない。車が走る道路脇を歩くことは楽しくなく、危険でもあるため、トレッカーの満足度にマイナスの影響がある。

トレッカーが増え、村の収入が増えることで、住民が求める道路などのインフラ整備が進むことは自然な変化である。一方で、道路整備により、車でアクセスできる村は、トレッカーが減少し、団体ツアーで訪れる観光客が増えて、すでに問題になっているごみ処理などの環境汚染問題が深刻化することが懸念されている。Annapurna South や Machhapuchhre の景色が見える Ghanduruk などの村が道路整備によりどのように変化していくか、またそれに伴う新しいトレッキングルートの開発についても研究が必要である。



注) Birenthanti Checkpost で作成され、掲示されている資料

図1 アンナプルナ保護地域のトレッカー数
上位10カ国 (2016年)

謝 辞

本研究はJSPS科研費16H05641の助成を受けたものです。なお、本助成の研究代表者・渡辺悌二教授 (北海道大学) とネパール現地コーディネーター・Dr. Dhanajay Regmi (Himalayan Research Expedition) には、調査において多大なる指導と協力をいただきました。また、厳しいトレッキングの行程で体調を崩すことなく、最後まで元気に調査のアシスタントをしてくれた大学院生の徐翰林さんと韓ゼミ3年の豊島由実さんにも感謝を伝えます。

参考文献

- Ministry of Culture, Tourism & Civil Aviation (2017). NEPAL TOURISM STATISTICS 2016. Retrieved from: http://www.tourism.gov.np/downloadfile/Nepal%20Tourism%20statistic_Final-2016_1498990228.pdf.
- Ministry of Culture, Tourism & Civil Aviation (2018). NEPAL TOURISM STATISTICS 2017. Retrieved from: <http://tourism.gov.np/files/statistics/2.pdf>.



写真1：MBCから見えるAnnapurna South (7,219m)
(2018年3月17日朝筆者撮影)



写真2：Ghandrukから見えるAnnapurna South (7,219m)
(2018年3月20日朝筆者撮影)



写真3：Machhapuchhre Base Campにあるトレッカー向け案内 (2018年3月16日筆者撮影)